

# 休日地域クラブ SAKURA 推進計画（案）

2026 年（令和 8 年） 月策定  
佐倉市教育委員会

## 目次

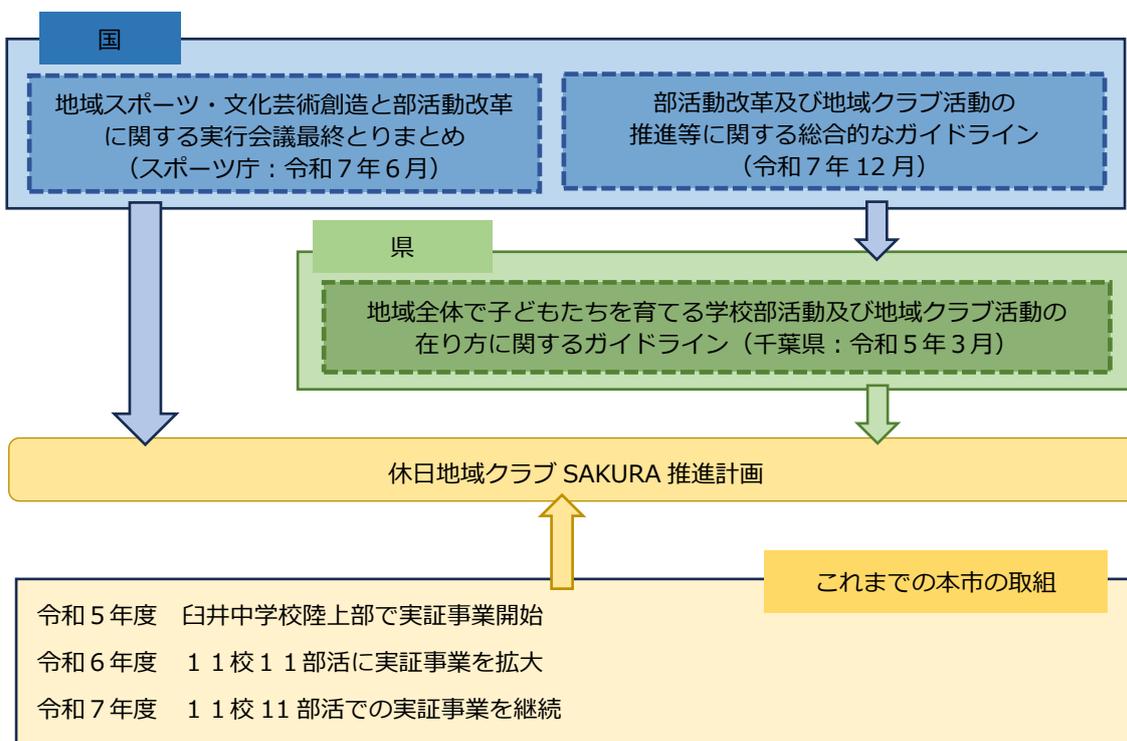
1	はじめに	1
2	部活動の課題と改革の方向性	2
3	市内の学校数及び部活動の活動状況など	6
4	これまでの本市の取組み	7
5	これまでの成果と課題分析	9
6	部活動改革及地域クラブ活動の推進に向けて	10
	(1) 基本目標	10
	(2) スケジュール	11
	(3) 活動体制	12
	(4) その他の取組事項・検討事項	13
	①部活動の地域への移行から新たな価値を生み出す地域クラブへ	13
	②地域クラブ活動を担う運営団体・実施主体の体制整備等	14
	③指導者等の質の保障・量の確保	15
	④活動場所の確保	16
	⑤活動場所への移動手手段の確保	17
	⑥大会やコンクールの参加	18
	⑦生徒、保護者等の関係者への理解促進	19
	⑧生徒の安全確保のための体制整備	20
	⑨多様な生徒の活動機会の確保	21
	⑩活動に係る経費等	22
7	おわりに	24
	資料編	
	資料(1) 佐倉市部活動地域指導事業検討会の開催状況	25
	資料(2) 佐倉市部活動地域展開に関する調査結果(速報版)	27

## 1 はじめに

本計画は、地域のスポーツ・文化芸術環境の充実を図り、段階的・計画的に地域展開（地域移行）に取り組むための指針として策定するものです。

策定にあたっては、『地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議 最終とりまとめ（スポーツ庁 令和7年6月）』（以下「最終とりまとめ」という。）、『部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進等に関する調査研究協力者会議 部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン（文部科学省 令和7年12月）』（以下「国ガイドライン」という。）」、及び『地域全体で子どもたちを育てる学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン（千葉県 令和5年3月）』（以下「千葉県ガイドライン」という。）を参考にしつつ、本市において令和5年度から7年度まで実施してきた「佐倉市部活動地域展開モデル」を参考に策定します。

ただし、国ガイドラインが令和7年12月に出されたことを受け、県ガイドラインも今後修正が加わる可能性があるほか、国においても適宜方針に修正が入る可能性があります。こうした国・県の最新の動向を捉えるほか、本市において事業を実施する中で、課題を検証・改善する必要も出てくることから、今後の状況に柔軟に対応するべく、適宜計画の見直しを図ってまいります。

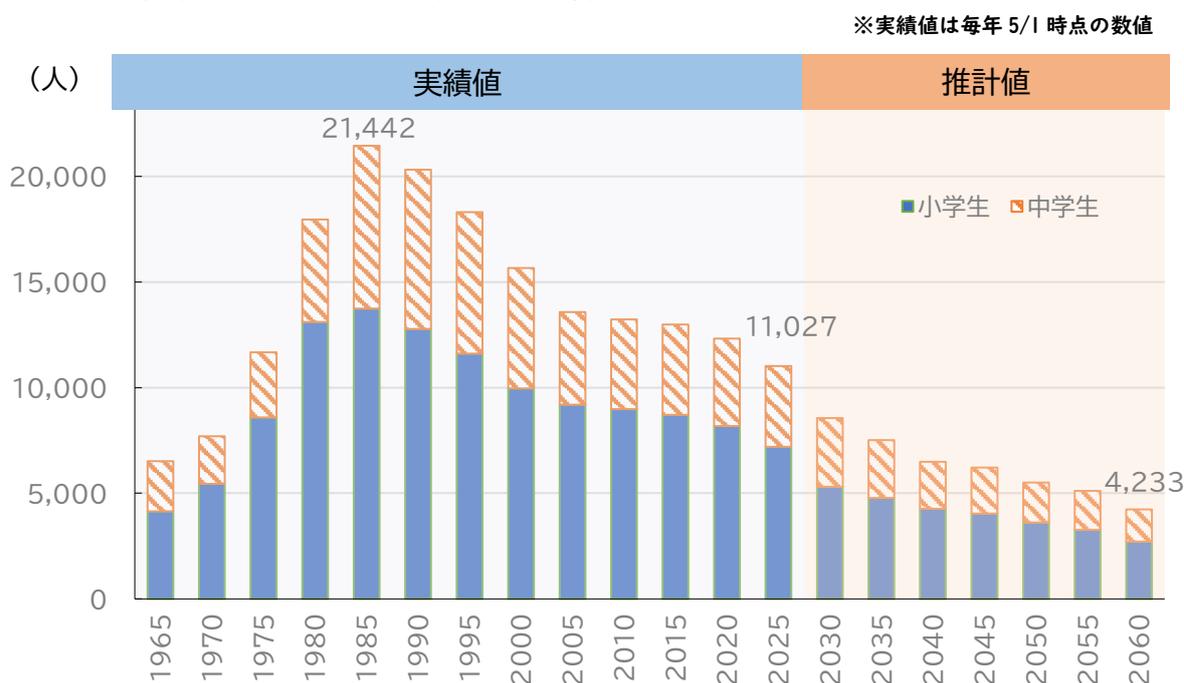


## 2 部活動の課題と改革の方向性

### 課題Ⅰ 少子化の進展に伴う活動機会の縮小

全国的に少子化が進む中、本市の市立中学校の生徒数も大幅に減少しています。令和6年度は、10年前と比較し、約10%減少しました。また、人口推計をみると、10年後には、さらに、約25%も減少するなど、今後は、これまで以上の速さで少子化が進むことが予測されます。

図Ⅰ 佐倉市の児童生徒数の推移と推計値



(出典：佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針)

千葉県においても、参考Ⅰの課題認識がされているように、本市においても、1校ではチーム編成ができない部活動も出てきており、今後は学校の枠を超えた地域単位で活動基盤を構築していく必要があります。



### (改革の方向性)

少子化の中でもスポーツ・文化芸術活動に  
継続して親しむことができる環境づくり

## 参考 1 (部活動に関連した千葉県の課題：千葉県 HP より引用)

今後 30 年間で、全国的に年少人口は 30%減少するといわれています。『千葉県人口ビジョン (令和 2 年)』を参考に、中学校生徒数、部活動数、平均部員数等を推計したところ、今後 5 年間ごとに約 5%ずつそれぞれ人数が減少していく見通しがあります。

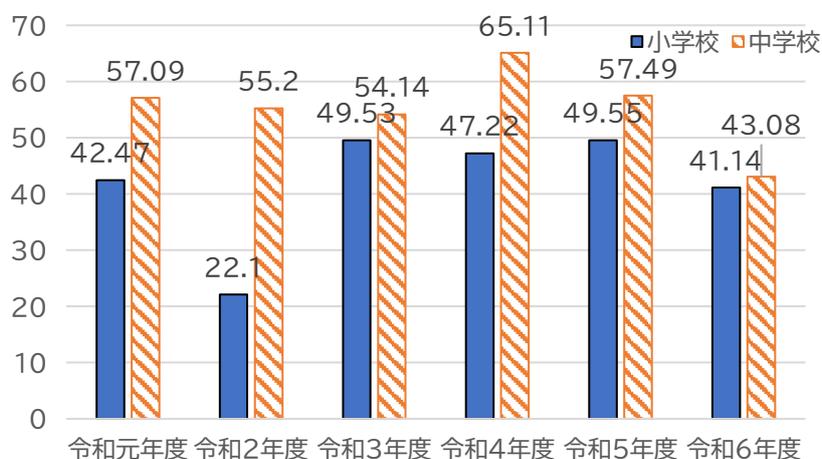
もちろん、部活動数や部活動加入率が変わらない前提での推計となりますが、このままの部活動運営体制では、いずれ平均部員数は 1 部活動 14 名以下となり、地域や種目・ジャンルによっては試合・コンクールはもちろん、練習すら成立しない状況も見込まれます。まして、3 年生引退後においては、さらに人数が減少することから、活動自体が困難な状況が想定されます。

こうした状況は、すでに一部地域や種目・ジャンルによって常態化しつつあり、合同部活動等で練習や試合を行う取組が見受けられます。今後、さらに加速する少子化の中で、子どもたちが引き続きスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境を創るためには、学校だけにとらわれることなく、地域が一体となった、新たなスポーツ・文化芸術活動に参画することのできる活動基盤を構築していく必要性が問われていきます。

## 課題 2 部活動を支えてきた教師への多大な負担

近年、教師の長時間労働が喫緊の課題として認識され、働き方の改革が求められています。特に、部活動については、「教師の献身的な勤務によって支えられており、長時間勤務の要因であることや、特に指導経験がない教師には多大な負担となっている」(文部科学省『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 令和 2 年 9 月』)と指摘されています。

図 2 本市の教員 1 人当たりの月別平均時間外在校等時間



(出典：佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針)

千葉県ガイドラインにおいても、「学校部活動の運営は、必ずしも教師が担う必要のない業務でありながら、教師の献身的な支えにより実現されてきた。本県では、中学校及び義務教育学校において教師の60%以上の割合で、文部科学省によって定められた教師の超過勤務時間を超えて業務にあたっている現状がある。」ことが指摘されていますが、図2を見る限り、本市においても小学校より中学校における平均時間外在校等時間が長い傾向が伺え、その一因に部活動指導が関係していると推察されます。部活動は教育課程外の活動であり、必ずしも教職員が担う必要のない業務であることから、まずは土日を中心として、部活動指導を希望しない教職員が、部活動指導に従事する必要のない環境を整備していきます。



(改革の方向性)

学校の働き方改革推進による  
学校教育の質向上

参考2 (部活動に関連した千葉県の課題：千葉県 HP より引用)

現在、教職員の働き方改革の必要性は全国的な社会問題となっています。文部科学省は「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」を告示し、教職員の1か月あたりの時間外在校等時間(いわゆる超過勤務時間と同様の意味です。)を45時間以内としています。同指針では、特別な事情がある場合は月100時間未満に限り勤務可能とする一方、時間外在校等時間が月45時間を超える月は年間6か月までとし、かつ連続する複数月の平均時間外在校等時間が80時間以内となるようにすることとしています。

本県においては、令和4年11月時点で、時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の割合は、中学校が最も高く、次ぐ義務教育学校とともに50%を超えています。また、月45時間を超えた場合の時間外在校等時間の平均も中学校が最も高く、約平均55時間40分となっています。

中学校においては、部活動顧問が教職員の業務負担の大きな要因の一つであることが指摘されています。一方、部活動は教育課程外の活動であり、必ずしも教職員が担う必要のない業務です。

本県では、主に休日を中心として、部活動指導を希望しない教職員が、部活動指導に従事する必要のない環境を整備することで、教職員が授業づくりや子どもの相談に応じること等の本来の業務に注力できる学校体制の推進を求めています。

### 課題3 体験できる活動の固定化

従来の部活動では、学校や地域の事情によって、生徒1人につき1つのスポーツ・文化芸術活動しか体験することのできないという実情も見られてきました。新たなスポーツ・文化芸術活動の推進により、活動を学校単位から地域単位へ移行することで、希望する場合は、休日は平日学校部活動とは異なる種目・ジャンルの活動に触れる機会を創出し、多様な体験を通じた豊かな成長につながるよう努める必要があります。



(改革の方向性)

持続可能で多様な体験機会の確保

### 3 市内の学校数及び部活動の活動状況など

(令和7年5月1日現在)

No.	学校名	生徒数	学級数
1	佐倉中学校	440人	16
2	志津中学校	675人	25
3	上志津中学校	286人	12
4	南部中学校	164人	8
5	臼井中学校	298人	12
6	井野中学校	538人	19
7	佐倉東中学校	232人	8
8	臼井西中学校	252人	11
9	西志津中学校	399人	15
10	臼井南中学校	317人	13
11	根郷中学校	232人	10
	合計	3,833人	149

※学級数には特別支援学級を含む。

#### 部活動の活動状況 (令和7年8月時点)

部活動名称	中学校名											合計
	佐倉中	志津中	上志津中	南部中	臼井中	井野中	佐倉東中	臼井西中	西志津中	臼井南中	根郷中	
陸上競技	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	10
水泳	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
バスケットボール【男子】	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	10
バスケットボール【女子】	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
サッカー	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	10
軟式野球	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
バレーボール【男子】	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	2
バレーボール【女子】	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
ソフトテニス【男子】	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	○	6
ソフトテニス【女子】	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
卓球	○	-	○	-	○	○	-	○	-	○	-	6
バドミントン	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-	3
ソフトボール	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	3
柔道	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
剣道	○	○	○	○	-	-	○	-	○	○	-	7
吹奏楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
美術	○	○	-	-	○	-	○	○	○	○	-	7
家庭科	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
コンピュータ	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
放送	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	2
科学ピオトープ (ピオトープ) (科学)	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	3
合計	16	16	12	9	11	12	11	11	12	11	8	129

#### 4 これまでの本市の取組

本市では、県の示すスケジュールに従い、部活動地域展開に関する様々な取組を行ってきました。

年度	主な取組内容
令和5年度	<input type="checkbox"/> 学識経験者や学校関係者、スポーツ団体、保護者等で構成する「佐倉市部活動地域指導事業検討会」を設置 <input type="checkbox"/> 市内1校1部活で休日地域展開の実証事業を開始
令和6年度	<input type="checkbox"/> 全11校で1部活ずつ、合計11部活に実証事業を拡大 <input type="checkbox"/> 実証事業と合わせて、拠点校部活動 <sup>※1</sup> の取組に着手 <input type="checkbox"/> 佐倉市部活動の在り方に関するガイドラインを策定し、部活動を実施する場合には、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう適切な休養日や活動時間等を設定
令和7年度	<input type="checkbox"/> 全11校で1部活ずつ、合計11部活の実証事業を継続 <input type="checkbox"/> 拠点校部活動の対象部活を拡大 <input type="checkbox"/> 佐倉市部活動地域展開に関する調査 <sup>※2</sup> を実施

上記に付随して、佐倉市部活動地域指導事業検討会での定期的な協議、保護者向け説明会や事業内容に関するリーフレット配布、実証事業体験者（生徒及びその保護者、当該部活の顧問）を対象としたアンケートを定期的の実施しております。

#### ※1 拠点校部活動とは

自分の在籍する学校に希望する部活動がない場合に、参加を希望する生徒を別の学校の部活動が受け入れる方式のこと。

#### ※2 佐倉市部活動地域展開に関する調査結果（概要）

##### （1）調査の目的

学校部活動の地域展開等に向けた取組を検討する基礎資料とするため、市立小中学校の児童生徒やその保護者、教職員に、アンケート調査を実施する。

##### （2）調査期間

令和7年7月～9月

### (3) 調査対象および調査方法

対象	調査方法	対象者数
中学校教職員	Google フォームで回答 回答用URLを配付、各自回答	294名
中学校1～2年生	Google フォームで回答 学習用端末 (Chromebook) を活用	2,543名
上記中学生保護者	Google フォームで回答 回答用QRコード入りチラシを配付	2,543名

### (4) 調査回答数 (回答率)

対象	回答者数 (回答率)
中学校教職員	227 (76.4%)
中学校1～2年生	1,885 (74.1%)
上記中学生保護者	805 (31.7%)

※ 調査内容及び回答につきましては、27ページ以降を参照ください。

## 5 これまでの成果と課題分析

本市では、7ページに記載した通り、令和5年度には1校1部活で、令和6年度及び7年度には11校11部活の地域展開実証事業を行ってきました。この結果、令和7年度に実施したアンケートでは部活動地域移行に対する保護者の認知度が74%と高いものになりました。

また、参加した生徒及びその保護者へのアンケート調査では、「専門的な指導を受ける事ができる」、「技術や体力が向上した」など地域展開のメリットを感じている回答が多くありました。

その反面、「もっと練習がしたい」や、「練習場所までの移動の心配や負担を感じる」といった点がデメリットとして挙げられました。

全体的な満足度はいずれの年度も高く、地域展開による活動のメリットを感じる生徒が多いものの、一部のニーズには応えられていないといった課題も出ています。

### 参考4 参加生徒の満足度（年度別）

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
参加者数	15人	179人	213人
満足・どちらかといえば満足を選択した割合	100%	75%	81%
不満・どちらかといえば不満を選択した割合	0%	5%	9%

## 6 部活動改革及び地域クラブ活動の推進に向けて

### (1) 基本目標

国ガイドライン及び千葉県ガイドラインの基本理念等を参酌し、本市における目標を設定しました。

## みんなの“やりたい”を叶える 休日地域クラブ SAKURA へ

こどもたちの



“やりたい”を

やりたい部活が学校にないから、諦めるか、、、

→「地区」の中から活動を選べるので“やりたい活動”に参加できます

休日は部活動に行かず、友達と遊んだり家族と過ごしたい

→休日地域クラブへの参加は任意です。あなたの“やりたいこと”に休日の時間を使えます。

教員の



“やりたい”を

休日はプライベートなことに時間を使いたい、、、

→休日地域クラブの指導者は、地域の人材を活用するため、先生方の参加も任意です。先生の“過ごしたい”休日を叶えます。

競技経験のある種目を教えたい！

→指導者登録をすることで、先生の“教えたい”を叶えます。

地域の方々の



“やりたい”を

こども達と活動の楽しさを共有したい！教えたい！

→指導者登録をすることで、意欲ある地域の方々の“教えたい”を叶えます。

#### 参考5 部活動改革の理念 国ガイドラインより

- 急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実するためには部活動改革を進めることが不可欠。
- これまで学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支えることで、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障することが必要。
- 障害のある生徒や運動・文化芸術活動が苦手な生徒等を含め、全ての生徒がそれぞれ希望に応じて多種多様な活動に参加できる環境を整備

#### 参考6 千葉県の部活動の指針より

「誰でも（年代や立場を問わず）  
やりたい（関わり方に関わらず）  
スポーツ・文化芸術活動が（目的や志向に応じて）  
できる（選び実践する）」環境を作ります

#### (2) スケジュール

令和8年8月からすべての運動部活動で、休日の地域クラブ活動を行うこととします。文科系の部活動については、令和8年度以降に実証事業を行い、課題を検証しながら地域展開を目指します。

また、平日の地域展開については今後の国・県の動向を踏まえ検討を続けていきます。

#### 参考7 国ガイドラインより抜粋・一部編集

##### 中間評価

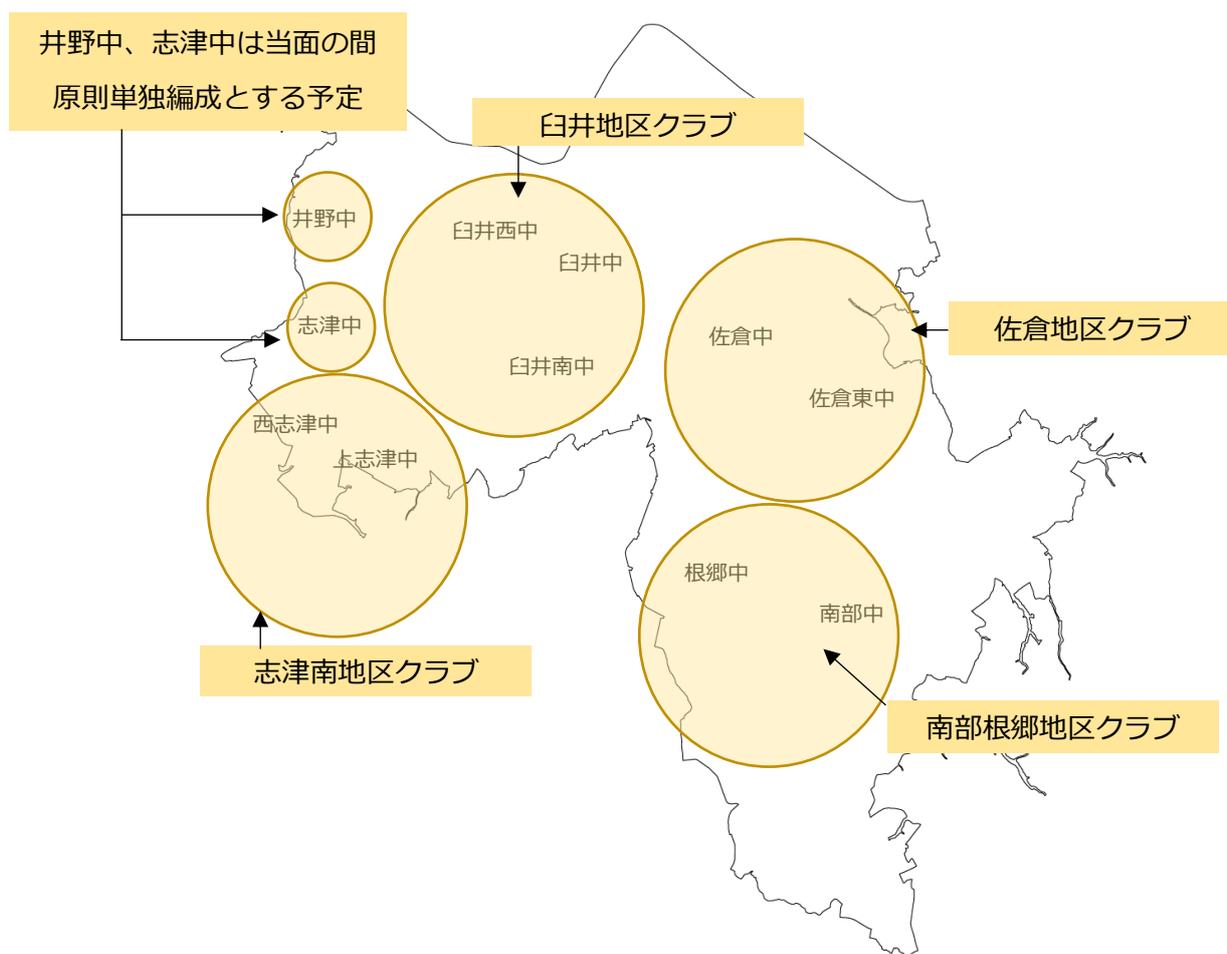
令和8年度～10年度 「改革実行期間」（前期）	令和11年度～13年度 「改革実行期間」（後期）
----------------------------	-----------------------------

休日 改革実行期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開を目指す  
平日 各種課題を解決しつつ、更なる改革を推進

### (3) 活動体制

部活動を取巻く課題の1つとして、少子化の影響があり、本市でもすでに合同部活動を組まないでチーム編成が出来ない部活動もでてきています。今後さらに進展する生徒数の減少を踏まえ、休日地域クラブ活動については、原則近隣の中学校との合同チーム編成とします。

図4 活動エリア図



#### (4) その他の取組事項・検討事項

##### ① 部活動の地域への移行から新たな価値を生み出す地域クラブへ

これまでの考え方は、現在の部活動の休日活動を地域に委託するという考え方のもと準備をすすめてきましたが、地域クラブ活動においては、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出することを目指します。

ただし、現段階では、各大会等の参加にあたり、平日の部活動との連携が欠かせないことから、学校との連携を引き続き図ることとします。

また、地域クラブ数につきましては、部員数、種目などを踏まえ、地区内における再編成などを行ないます。

#### 本市における具体的な取組や目標

- 生徒のニーズに応じた種目の新設
- 更に進展する少子化を見据えた活動体制（P12 図4参照）
- 中学校部活動との連携
- 拠点校部活動の継続

#### 参考8 本件に関する最終とりまとめでの提言

●地域クラブ活動においては、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出することが重要。

<新たな価値の例>

生徒のニーズに応じた多種多様な体験（1つの競技種目等に専念しないマルチスポーツや、スポーツと文化芸術の融合、レクリエーション的活動等を含む）生徒の個性・得意分野等の尊重、学校等の垣根を越えた仲間とのつながり創出、地域の様々な人や幅広い世代との豊かな交流、適切な指導者による良質な指導、学校段階にとらわれない継続的な活動（引退のない継続的な活動）及び地域クラブの指導者による一貫的な指導

●地域クラブ活動の具体的な実施形態や活動内容等は多様な形があり得る。地域の実情等にあった望ましい在り方を見出していくことが重要。

●民間のクラブチーム等との区別や質の担保等の観点から、国として、地域クラブ活動の定義・要件や認定方法等を示した上で、地方公共団体において認定を行う仕組みを構築していく必要。

② 地域クラブ活動を担う運営団体・実施主体の体制整備等

令和5年度から7年度まで、実施してきた「佐倉市部活動地域展開モデル」を生かしながら、ノウハウを有する民間の地域クラブ等と積極的に連携することを目指します。

子どもたちの多様なニーズに応じた、誰もが参加できる活動の展開のしくみづくりに努めます。

本市における具体的な取組や目標

- 休日地域クラブ SAKURA における活動の推進
- 民間事業者や大学等との連携

参考 9 本件に関する最終とりまとめでの提言

地域クラブ活動を担う運営団体・実施主体の体制整備等

- 地域全体での連携体制の整備（地方公共団体と関係団体等との連携・協働、コーディネーターの配置、学校との連携等）
- 運営に関するサポート体制の整備、運営を担う人材の確保・育成
- 生徒のニーズや意見等が反映される仕組みづくり
- 安全・安心な活動機会の提供
- 組織体制・財政基盤の整備
- ICT 活用による運營業務の効率化 等

### ③ 指導者等の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・マッチング・配置については、ノウハウを有する民間の地域クラブ等に委託することとし、大学生の活用促進、希望する教職員の兼職兼業等の幅広い指導者の確保に努めます。

#### 本市における具体的な取組や目標

- 民間事業者や大学等との連携
- 中学校教員だけではなく、小学校の教員、高等学校・特別支援学校の教員、事務職員等幅広い者が、希望に応じて兼職兼業が出来る環境の整備
- 佐倉市版人材バンクページの立ち上げ及び「ちばクラサポ<sup>※</sup>」の活用
- 指導者に対する必要な研修の実施（指導方法、パワハラやセクハラ防止など）

※ 千葉県が運用する、千葉県地域クラブ活動指導者人材バンクの愛称

#### 参考 10 本件に関する最終とりまとめでの提言

##### 指導者等の質の保障・量の確保

- 多様な人材の発掘・マッチング・配置（人材バンクの設置・運用、大学生の活用促進、希望する教職員の兼職兼業等）
- 適切な資質・能力の保障、人材育成（研修会開催、公認指導者資格の取得促進、指導の手引き作成、適切な処遇の確保等）
- 平日（学校部活動）と休日（地域クラブ活動）の一貫指導 等

#### 参考 11 市で実施したアンケート調査の抜粋：教員向け

休日の学校部活動を地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動に地域移行した場合、あなたは兼職兼業の許可を得た上で、こどもたちのスポーツや文化芸術活動の指導に従事したいと思いますか。

（教職員 227 名からの回答状況）

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| ①勤務条件、報酬によって検討したい | 53名 (23.4%)  |
| ②今の段階ではわからない      | 57名 (25.1%)  |
| ③従事したい            | 17名 (7.5%)   |
| ④従事したくない          | 100名 (44.1%) |

#### ④ 活動場所の確保

活動場所については、中学校の学校施設等の有効活用を図ることを基本とするが、鍵の受渡しの学校負担を軽減するなど、活動場所の管理運営の効率化を図るとともに、トイレ、更衣室の設置など必要に応じた環境整備に努めます。

#### 本市における具体的な取組や目標

- 中学校の体育館、校庭の活用
- その他、公共施設の活用
- 学校開放の活用
- 鍵の受け渡しや、施設のセキュリティ確保といった課題への対応検討

#### 参考 12 本件に関する最終とりまとめでの提言

##### 活動場所の確保

- 学校施設等の有効活用（地方公共団体等による協力等）
- 認定を受けた地域クラブ活動の優先利用・使用料減免等
- 活動場所の管理運営の効率化等（ICT活用、鍵の受渡しの負担軽減、指定管理者制度等の活用、学校施設の複合化等）

⑤ 活動場所への移動手段の確保

原則として、現在の部活動と同地区に活動拠点を設置することで、生徒自身が通うことができる環境創出に努めます。ただし、地区をこえた活動につきましては、公共交通機関の利用や、保護者等に協力を依頼することとします。

本市における具体的な取組や目標

- 原則現在の部活動と同地区に活動拠点到設置することで、徒歩又は自転車を利用して移動できる環境創出

参考 13 本件に関する最終とりまとめでの提言

活動場所への移動手段の確保

- 既存車両の有効活用（スクールバスやスポーツ団体のマイクロバス等）
- 地域公共交通との連携等（運行ダイヤの見直し検討、利用料への補助、AI オンデマンド交通や公共ライドシェアの活用等）
- 多様な政策分野との連携・協働等（介護・福祉・医療等）

参考 14 市で実施したアンケート調査の抜粋：生徒向け

（学校部活動以外で）普段活動している場所までの移動手段（複数ある場合は最も長い時間の移動となるもの）を選んでください

（生徒499名からの回答状況）

①車（家族の送迎）	269名（53.9%）
②自転車	90名（18.0%）
③バスや電車	84名（16.8%）
④徒歩	53名（10.6%）
⑤その他	3名（0.6%）

## ⑥ 大会やコンクールの参加

大会やコンクール等への参加については、それぞれの大会要項等により異なることから、各運営団体等の動向を見極めながら、生徒の意向やレベル、ニーズに応じて参加ができるようにするとともに、生徒や指導者の過度な負担とならないよう、大会に参加する生徒への支援、引率等の体制整備（地域クラブ活動関係者等）に努めることとします。

また、地域クラブ活動と部活動ともに大会等への参加が認められる場合、両方に所属する生徒がどちらの団体で参加するかについては、生徒の意向を尊重します。

なお、現段階では、平日の部活動との連携が欠かせないことから、今後も、各大会等の動向を見極めながら、学校との連携に努めます。

### 本市における具体的な取組や目標

- 大会への参加にあたり、生徒の意向確認とその尊重
- 生徒が所属する中学校との連携
- 大会開催地までの交通費・宿泊費の支援等
- 民間事業者等との連携

### 参考 15 本件に関する最終とりまとめでの提言

#### 大会やコンクールの運営の在り方

- 生徒の大会等の参加機会の確保（地域クラブ活動の認定制度の導入に合わせた大会参加規程の見直し、行政・関係団体等による協議の場の設定等）
- 大会に参加する生徒への支援等（交通費・宿泊費の支援等）
- 大会の運営及び引率等の体制整備（地域クラブ活動関係者や保護者等の参画促進、大会運営の外部委託等）等

### 参考 16 市で実施したアンケート調査の抜粋：教員向け

中学校体育連盟主催の大会や中学校吹奏楽連盟主催のコンクール等に地域のクラブチームや文化活動団体等が参加することになったとしたら、どのように思いますか。

（教職員 227 名からの回答状況）

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| ①参加団体が増えてよい        | 105 名 (46.3%) |
| ②参加団体が増えるのはあまりよくない | 58 名 (25.6%)  |
| ③その他               | 64 名 (28.2%)  |

⑦ 生徒、保護者等の関係者への理解促進

学校と連携した生徒等へのきめ細かな情報提供等、体験会等の開催、生徒等の希望を把握するためのアンケート調査の実施等により、今後も地域展開についての理解に努めます。

本市における具体的な取組や目標

- 佐倉市部活動地域展開 News の定期的な配信や PR 動画の配信
- アンケート等の定期的な実施
- 地域の行事等における発表会等の機会創出

参考 17 本件に関する最終とりまとめでの提言

- 国における取組（ポスター・チラシ・動画等、ポータルサイトや SNS 等を通じた広報、説明会・シンポジウム等の開催）
- 地方公共団体等における取組（学校と連携した生徒等へのきめ細かな情報提供等、体験会等の開催、生徒等の希望を把握するためのアンケート調査やワークショップの実施等）

参考 18 市で実施したアンケート調査の抜粋：保護者向け

学校部活動の地域移行について知っていますか

（保護者 805 名からの回答状況）

- ①知っている 597 名 (74.2%)
- ②知らなかった 32 名 (4.0%)
- ③なんとなく聞いたことはあるがよくわからない 176 名 (21.9%)

⑧ 生徒の安全確保のための体制整備

民間の地域クラブ等と連携し、事故や暴力・暴言等の不適切行為やいじめの防止（指導者・保護者・生徒等への研修等、組織的な体制整備、相談窓口の活用促進等）、事故や不適切行為が発生した場合の責任の所在の明確化、生徒及び指導者の保険への加入（傷害保険＋賠償責任保険）などに努め、安全、安心な運営に努めます。

本市における具体的な取組や目標

- 民間事業者等との連携
- 指導者・保護者・生徒等への研修等の推進
- 事案発生等における迅速な対応及び再発防止の徹底
- 過度な練習等の防止
- 競技ごとの指導手引（練習メニュー・活動スケジュール・効果的な練習方法、安全面の注意事項等）の普及・活用
- 適切な活動時間・休養日の設定（平日は2時間程度以内、休日は3時間程度以内）
- 生徒のニーズを踏まえた活動環境を整備

参考 19 本件に関する最終とりまとめでの提言

- 事故や暴力・暴言等の不適切行為やいじめの防止（指導者・保護者・生徒等への研修等、組織的な体制整備、相談窓口の活用促進等）
- 事故や不適切行為が発生した場合の責任の所在の明確化
- 生徒及び指導者の保険への加入（傷害保険＋賠償責任保険）

⑨ 多様な生徒の活動機会の確保

部活動の地域展開にあたっては、その主役・当事者となる生徒を第一に考え、生徒のニーズに合った地域クラブ活動の構築等を行うことが重要です。障害のある生徒や運動が苦手な生徒、スポーツ・文化芸術活動を気軽に楽しみたい生徒等を含め、多様な生徒がそれぞれの希望に応じて、多種多様な体験ができる環境の整備に努めます。

本市における具体的な取組や目標

- 生徒のニーズを踏まえた活動環境を整備
- 民間事業者等との連携

参考 20 本件に関する最終とりまとめでの提言

- 多様な地域の関係者の参画（障害者スポーツセンター、地域のパラスポーツ協会、放課後等デイサービス実施事業者等）
- 新たなスポーツ・文化芸術活動の機会の提供
- 障害のある人へのスポーツ指導等の際に参考となるツール等を活用した指導者の資質・能力の向上 等

#### ⑩ 活動に係る経費等

地域クラブの運営にあたっては、部活動とは異なり、地域クラブによる、安定的・継続的に取組が進められるよう、受益者負担と公的負担とのバランス等の費用負担のあり方を検討の上、保護者による一定の費用負担が発生することが想定されます。

受益者負担の水準については、地域クラブ活動を将来にわたり持続可能な活動とする観点から、受益者(参加者)による費用負担を原則とし、参加者からの会費をもとに、運営主体が自立的な運営を目指す体制とします。

このため、保護者、生徒、学校および地域に対して、受益者負担を原則とした地域クラブ活動の運営について、理解の促進に努めることとします。

ただし、家庭の経済格差が生徒の体験格差につながることをないよう、経済的に困窮する世帯の生徒への支援については確実に措置を行ってまいります。

また、地域クラブと連携し、ふるさと納税やクラウドファンディングをはじめとした寄附等の活用等、新たな財源の確保についても検討していくこととします。

#### 本市における具体的な取組や目標

- 受益者(参加者)による費用負担を原則とした運営
- 保護者、生徒、学校および地域に対する理解促進
- 経済的困窮世帯への参加費用支援
- 寄附などの新たな財源確保の検討

#### 参考 21 本件に関する最終とりまとめでの提言

##### 費用負担の在り方等

・地方公共団体において、地域の実情等に応じて安定的・継続的に取組が進められるよう、受益者負担と公的負担とのバランス等の費用負担の在り方等を検討する必要(公的負担については国・都道府県・市区町村で支え合うことが重要)。

・企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングをはじめとした寄附等の活用等、新たな財源の確保も有効に組み合わせしていくことが重要。

・家庭の経済格差が生徒の体験格差につながることをないよう、経済的に困窮する世帯の生徒への支援については確実に措置を行う必要。

・部活動指導員の配置について、次期改革期間においても一定の範囲で支援を行っていく必要。

参考 22 市で実施したアンケート調査の抜粋：保護者向け

地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動に参加させる場合、参加費等（月謝）は、いくらまで負担できますか。※1か月あたりの練習回数は4回程度、1回3時間程度を想定しています。

回答数 805名

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| ①1,000円まで          | 60名 (7.5%)   |
| ②2,000円まで          | 92名 (11.4%)  |
| ③3,000円まで          | 113名 (14.0%) |
| ④4,000円まで          | 58名 (7.2%)   |
| ⑤5,000円まで          | 90名 (11.2%)  |
| ⑥6,000円まで          | 13名 (1.6%)   |
| ⑦7,000円まで          | 9名 (1.1%)    |
| ⑧8,000円まで          | 11名 (1.4%)   |
| ⑨10,000円まで         | 15名 (1.9%)   |
| ⑩10,000円～20,000円まで | 5名 (0.6%)    |
| ⑪ 無回答              | 339名 (42.1%) |

## 7 おわりに（最終的な休日のスポーツ・文化芸術活動の在り方）

本計画は、これまで長い間学校で行われてきた部活動について、段階的に休日は実施しないこととし、代わりに部活動がない休日において、生徒が主体的に、多様な運動・スポーツ、文化芸術活動に親しむことのできる環境整備を進めるため、現時点における本市の取り組みの方向性を示したものになります。

今後も引き続き国や千葉県の動向を注視し、柔軟に本計画の見直しを図りながら、検討を続けていくこととします。

少子高齢化が急速に進む中、部活動の抱える課題の解決とともに、これからも佐倉市の子どもたちが、学校だけでなく、地域で行われる様々な活動を通じて、健やかに成長できるよう、行政・学校・保護者・地域との連携・協働に努めてまいります。

## 資料（１）

### 佐倉市部活動地域指導事業検討会の開催状況

佐倉市立中学校における部活動の地域移行に向けた総合的な企画及び課題解決に向けた検討を行い、段階的に地域移行を推進するため、佐倉市部活動地域指導事業検討会議（以下「検討会議」という）を設置しております。

検討会議は、次に掲げる事項について検討します。

- (1) 部活動の地域移行に必要な総合的な企画に関する事。
- (2) 関係機関及び団体との連絡調整に関する事。
- (3) その他部活動の地域移行に必要な事項に関する事。

回	開催日	内容
第1回	令和5年5月15日	① 佐倉市部活動地域指導事業検討会組織について ② 部活動改革を取巻く国・県の動きについて ③ 佐倉市の状況報告 ・令和5年度実証事業の委託内容と状況報告 ・市内で行われている独自取組について ・アンケート結果について ④ 今後のスケジュールについて
第2回	令和5年10月2日	① 第1回会議以降の市の動きについて ② 先行事例について ③ 実証実験の拡大について
第3回	令和6年3月26日	① 前回会議以降の市の動きについて ② 令和5年度事業のまとめについて ③ 令和6年度事業について
第4回	令和6年7月23日	① 佐倉市の部活動地域指導事業の進捗について ・部活動地域移行の取り組みについて ・拠点校部活動について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社オークスベストフィットネスより 取組報告について</li> <li>② 推進計画の策定について</li> <li>③ 今後のスケジュールについて</li> </ul>
第5回	令和6年11月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 第1回会議以降の各クラブの取組み状況について</li> <li>② 今後の取組みについて</li> <li>③ 推進計画の策定について</li> </ul>
第6回	令和7年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和6年度の事業のまとめについて</li> <li>② 推進計画について</li> <li>③ 令和6年度の成果と課題及び令和7年度の取組みについて</li> </ul>
第7回	令和7年7月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 部活動地域展開の取組状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組状況について</li> <li>・令和7年度の委託事業について</li> </ul> </li> <li>② 推進計画の策定について</li> <li>③ 今後のスケジュールについて</li> </ul>
第8回	令和7年11月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 部活動地域展開推進計画（案）について</li> <li>② 今年度の取組状況について</li> <li>③ 来年度事業について</li> </ul>

## 佐倉市部活動地域展開に関する調査結果（速報版）

## Ⅰ 中学校教職員

現在、部活動の顧問（副顧問を含む）を担当していますか。

教職員 ２２７名

①している １９４名（８５．５％）

②していない ３３名（１４．５％）

現在担当（顧問）している部活動の競技・種目・分野はなんですか。

野球部 １７名

サッカー部 １４名

バスケットボール部 ２５名

バレーボール部 １９名

ソフトボール部 ６名

バドミントン部 ５名

ソフトテニス部 ２２名

卓球部 １０名

陸上競技部 ２０名

水泳部 ３名

柔道部 ２名

剣道部 ９名

吹奏楽部 １９名

美術部 １２名

その他 １１名

現在担当（顧問）している部活動の競技・種目について、例えば活動時間の短縮や他校との合同部活動、外部講師による指導をすでに入れているなど「部活動改革、改善（部活動の在り方を改善する取組）」は進んでいますか。先生方の現状の受け止めをお答えください。

①外部講師に指導をお願いしている ７名（３．１％）

②活動時間の短縮を行っている ７８名（３４．４％）

③他校との合同部活動を行っている １５名（６．６％）

④部活動改革は進んでいないと感じる ６７名（２９．５％）

- ⑤部活動地域移行の実証事業を行っている 13名 (5.7%)
- ⑥その他 14名 (6.2%)
- ⑦空白 33名 (14.5%)

現在、担当（顧問）している部活動は、ご自身が専門として指導できるものですか。

- ①専門として指導できる 103名 (45.4%)
- ②専門ではないが、過去に指導した経験がある 34名 (15.0%)
- ③専門ではないし、過去に指導したこともない 57名 (25.1%)
- ④空白 33名 (14.5%)

現在の平日の部活動の指導時間について、どのようにお考えですか。

- ①現状のままでよい 107名 (47.1%)
- ②現状のままで構わないが、大会前はもっと練習時間を確保したい 40名 (17.6%)
- ③現状より短いほうがよい 30名 (13.2%)
- ④現状より長いほうがよい 17名 (7.5%)
- ⑤空白 33名 (14.5%)

現在の休日の指導時間についてどのようにお考えですか。

- ①現状のままでよい 120名 (52.9%)
- ②現状のままで構わないが、大会前はもっと練習時間を確保したい 29名 (12.8%)
- ③現状より短いほうがよい 33名 (14.5%)
- ④現状より長いほうがよい 12名 (5.3%)
- ⑤空白 33名 (14.5%)

現在の活動日数についてどのように感じていますか。

- ①現状のままでよい 115名 (50.7%)
- ②現状のままで構わないが、大会前はもっと練習時間を確保したい 33名 (14.5%)
- ③現状より短いほうがよい 32名 (14.1%)
- ④現状より長いほうがよい 14名 (6.2%)
- ⑤空白 33名 (14.5%)

部活動の指導についてどのように感じていますか

- ① やりがいを感じる 50名 (22.0%)
- ② どちらかといえばやりがいを感じる 65名 (28.6%)
- ③ どちらかといえば負担を感じている 49名 (21.6%)
- ④ 負担を感じている 30名 (13.2%)
- ⑤ 空白 33名 (14.5%)

部活動の顧問をしている中で、どのようなことに負担を感じていますか。(複数回答可)

- ① 教材研究等の時間が少なくなること 40名
- ② 帰宅時間が遅くなること 37名
- ③ 家族との時間が少なくなること 34名
- ④ 休日の活動や大会等の引率業務 51名
- ⑤ 専門的知識や指導技術が不足していること 50名
- ⑥ 部費など活動経費等の管理 28名
- ⑦ 自己負担がかかること 23名

休日の学校部活動を地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動に地域移行した場合、あなたは兼職兼業の許可を得た上で、こどもたちのスポーツや文化芸術活動の指導に従事したいと思いますか。※「兼職兼業」とは、地域の教室・クラブ活動の指導を希望し、教育委員会の許可を得た教職員が地域団体と雇用契約または業務委託契約を交わす、もしくは有償ボランティアとして、地域団体から報酬を受けて指導に従事する

- ① 従事したい 17名 (7.5%)
- ② 勤務条件、報酬によって検討したい 53名 (23.4%)
- ③ 今の段階ではわからない 57名 (25.1%)
- ④ 従事したくない 100名 (44.1%)

どのような理由で希望しますか。(複数回答可)

- ① 指導にやりがいを感じているから 39名
- ② 自分がやってきた活動に今後も貢献したいから 38名
- ③ 生徒の成長がうれしいから 49名
- ④ 大会などで良い成績を収めたいから 14名
- ⑤ 副業として収入増となるから 30名

休日の学校部活動の地域移行において、期待することはありますか（複数回答可）

- ①専門知識や技術の向上 104名
- ②設備の整った場所で練習できること 66名
- ③こどもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な活動が選択できること 82名
- ④他行の生徒等と交流できること 34名
- ⑤教員の負担軽減につながる事 176名

休日の学校部活動の地域移行において、課題となることは何ですか。（複数回答可）

- ①受け皿となる団体や指導者の確保 172名
- ②部活動顧問（教員）と指導者との指導の違い 157名
- ③指導者の質や指導方法（行き過ぎた指導や勝利至上主義など） 109名
- ④中学校3年間において継続した活動 43名
- ⑤会費等の経済的負担 90名
- ⑥学校以外の活動場所までの移動手段や送迎の負担 104名
- ⑦事故やトラブルへの対応や補償 133名
- ⑧他校の生徒との人間関係 81名
- ⑨その他 23名

中学校体育連盟主催の大会や中学校吹奏楽連盟主催のコンクール等に地域のクラブチームや文化活動団体等が参加することになったとしたら、どのように思いますか。

教職員 227名

- ①参加団体が増えてよい 105名（46.3%）
- ②参加団体が増えるのはあまりよくない 58名（25.6%）
- ③その他 64名（28.2%）

## 中学1～2年生

回答数 1885名

あなたは現在、何年生ですか。

- ①1年生 990名 (52.5%)
- ②2年生 895名 (47.5%)

現在、運動やスポーツ、文化芸術に関する活動を行っていますか

- ①学校部活動で行なっている 1,266名 (67.2%)
- ②学校部活動以外の、教室・クラブ等で行っている（サッカースクールやピアノ教室など）147名 (7.8%)
- ③学校部活動と学校部活動以外の教室・クラブ等両方で行っている 352名 (18.7%)
- ④何も行っていない 120名 (52.9%)

加入している学校部活動の競技・種目はなんですか（複数回答可）

- ①野球 20名
- ②サッカー 15名
- ③バスケットボール 49名
- ④バレーボール 26名
- ⑤ソフトボール 5名
- ⑥バドミントン 2名
- ⑦ソフトテニス 39名
- ⑧卓球 11名
- ⑨陸上競技 74名
- ⑩水泳 9名
- ⑪柔道 3名
- ⑫剣道 24名
- ⑬吹奏楽 47名
- ⑭美術 19名
- ⑮その他 29名

学校の部活動に加入した理由はなんですか（複数回答可）

- ①小学生の時からやっている競技・種目だったから 500名
- ②中学生になったらやりたい競技・種目だったから 657名
- ③体力や技術・技能を高めたいから 655名
- ④大会やコンクールなどで良い成績を収めたいから 345名
- ⑤友達と一緒にできるから 656名
- ⑥周囲の人に勧められたから 250名
- ⑦専門の指導者がいるから 21名

平日の部活動の活動時間について、最も当てはまるものを選んでください

- ①現状のままでよい 935名
- ②現状よりも長いほうがよい 331名
- ③現状より短いほうがよい 140名
- ④現状のままで構わないが、大会前はもっと練習したい 212名

休日の部活動の活動時間について、最も当てはまるものを選んでください

- ①現状のままでよい 993名
- ②現状よりも長いほうがよい 234名
- ③現状より短いほうがよい 238名
- ④現状のままで構わないが、大会前はもっと練習したい 153名

休養日の日数について、最も当てはまるものを選んでください

- ①現状のままでよい 1,061名
- ②現状よりも多いほうがよい 305名
- ③現状より少ないほうがよい 114名
- ④現状のままで構わないが、大会前はもっと練習したい 138名

学校部活動以外の教室・クラブ等で行っている競技・種目はなんですか。（複数回答可）

- ①サッカー 89名
- ②水泳 27名
- ③野球 71名
- ④ダンス 49名

⑤卓球	2名
⑥空手	19名
⑦陸上競技	14名
⑧バドミントン	1名
⑨剣道	18名
⑩書道	43名
⑪バレーボール	13名
⑫硬式テニス	16名
⑬ソフトテニス	25名
⑭ラグビー	1名
⑮スキー	0名
⑯バスケットボール	37名
⑰ハンドボール	0名
⑱体操競技	6名
⑲柔道	3名
⑳美術	4名
㉑弓道	1名
㉒少林寺拳法	0名
㉓吹奏楽	1名
㉔合唱	3名
㉕ソフトボール	4名
㉖スノーボード	0名
㉗スケート	1名
㉘スケートボード	0名
㉙スポーツ全般（複数競技）	1名
㉚ボクシング	6名
㉛茶道	0名
㉜華道	1名
㉝囲碁	0名
㉞将棋	2名
㉟ピアノ	73名
㊱新体操	2名
㊲その他	63名

学校部活動以外の教室・クラブ等に参加している理由はなんですか（複数回答可）

- ①小学校の時からやっている競技・種目だから 219名
- ②やりたい競技・種目が学校部活動になかったから 14名
- ③体力や技術・技能を高めたいから 112名
- ④大会やコンクールなどでよい成績を収めたいから 51名
- ⑤友達と一緒にできるから 19名
- ⑥周囲の人に勧められたから 36名
- ⑦専門の指導者がいるから 48名

いつ活動していますか

- ①主に平日の放課後 134名
- ②主に休日（土曜日・日曜日・祝日） 100名
- ③平日・休日ともに 265名

普段活動している場所までの移動手段（複数ある場合は最も長い時間の移動となるもの）を選んでください

- ①車（家族の送迎） 269名
- ②自転車 90名
- ③バスや電車 84名
- ④徒歩 53名
- ⑤その他 3名

学校部活動以外の教室・クラブ活動に参加してよかったことはなんですか（複数回答可）

- ①専門知識や技能が身につくこと 368名
- ②設備の整った場所で練習できること 229名
- ③他校の生徒と交流できること 234名
- ④自分のレベルに合った活動ができること 239名

学校部活動や学校部活動以外の教室・クラブ活動に参加していない理由はなんですか（複数回答可）

- ①興味がないから 48名
- ②やりたいことがないから 48名
- ③勉強との両立に不安があるから 39名

- ④練習や人間関係などが不安だから 33名
- ⑤他にやることがあって時間がないから 32名
- 部費や会費などお金がかかるから 23名

どのような条件であれば、スポーツ・文化芸術活動を行ってみたいと思いますか（複数回答可）

- ①専門的な指導者や活動場所などが整っていること 18名
- ②同じレベルの人だけで真剣勝負ができること 22名
- ③自分なりのペースで参加できること 86名
- ④勝ち負けにこだわらず、もっと気軽にゆるやかな活動ができること 47名
- ⑤あまりお金がかからないこと 37名

佐倉市では、休日の部活動に代わる活動として、『地域単位での活動＝休日地域クラブ』の設立準備を進めています。原則、近隣の中学校と一緒に活動するほか、学校にはない活動に参加できたり、専門的な指導者から教わるなどができるなどのメリットがあります。休日地域クラブが設立された場合の、皆さんの考えをお聞かせください。

学校部活動に代わって、休日地域クラブに移行した場合、どんな活動をやってみたいですか。

中学生 1, 2年生 1, 885名

- ①わからない、特にない 405名 (21.5%)
- ②学校部活動と同じ競技・種目の活動 681名 (36.1%)
- ③学校部活動にはない競技・種目の活動 211名 (11.2%)
- ④現在行っている教室・クラブ等の活動を続ける 158名 (8.4%)
- ⑤参加したいと思わない 316名 (16.8%)
- ⑥複数の競技・種目を体験できる活動（例：野球と吹奏楽など） 114名 (6.1%)

学校部活動に代わって、休日地域クラブに移行した場合、そのような競技・種目に参加したいですか（複数回答可）

- ①サッカー 141名
- ②水泳 66名
- ③野球 96名
- ④ダンス 102名

⑤卓球	82名
⑥空手	35名
⑦陸上競技	88名
⑧バドミントン	153名
⑨剣道	59名
⑩書道	27名
⑪バレーボール	161名
⑫硬式テニス	58名
⑬ソフトテニス	130名
⑭ラグビー	8名
⑮スキー	43名
⑯バスケットボール	148名
⑰ハンドボール	28名
⑱体操競技	29名
⑲柔道	25名
⑳美術	38名
㉑弓道	84名
㉒少林寺拳法	11名
㉓吹奏楽	99名
㉔合唱	39名
㉕ソフトボール	28名
㉖スノーボード	46名
㉗スケート	31名
㉘スケートボード	31名
㉙スポーツ全般（複数競技）	19名
㉚茶道	42名
㉛華道	17名
㉜囲碁	9名
㉝将棋	24名
㉞ピアノ	48名
㉟新体操	28名
㊱ボクシング	48名
㊲その他	41名

学校部活動に代わって、休日地域クラブに移行した場合、どんな活動になるとよいと思いますか。（複数回答可）

- |                                     |      |
|-------------------------------------|------|
| ①専門的な技術指導が受けられる活動                   | 377名 |
| ②大会やコンクールで良い成績が収められる活動              | 274名 |
| ③幅広い年代の人と一緒にできる活動                   | 72名  |
| ④初めてでも気軽に参加でき、楽しむことを目的としたレクリエーション活動 | 283名 |

学校に部活動に代わって、休日地域クラブに移行した場合、活動時間はどのくらいがいいですか。

- |          |      |
|----------|------|
| ①1時間以内   | 55名  |
| ②1時間～2時間 | 344名 |
| ③2時間～3時間 | 377名 |
| ④3時間～4時間 | 149名 |
| ⑤4時間以上   | 81名  |

学校部活動に代わって、休日地域クラブに移行した場合、心配なことはありますか

- |                                  |      |
|----------------------------------|------|
| ①学校の顧問の先生と教室・クラブの指導者との指導方法・内容の違い | 597名 |
| ②教室・クラブの指導者や他校の生徒などとの人間関係        | 545名 |
| ③会費などの負担                         | 292名 |
| ④活動場所までの移動手段                     | 451名 |

## 中学1～2年生保護者

お子さんは現在、中学校 何年生ですか（お子さんが複数いる場合は、下のお子さんの学年で回答）

- ①1年生 413名
- ②2年生 392名

お子さんは現在、運動（スポーツ）および文化芸術に関する活動を行っていますか。

- ①学校部活動で行っている 571名
- ②学校部活動以外の教室・クラブ等で行っている 42名
- ③学校部活動と学校部活動以外の教室・クラブ等両方で行っている 154名
- ④何もおこなっていない 38名

お子さんが加入している学校部活動の競技・種目はなんですか。

- ①野球 47名
- ②サッカー 40名
- ③バスケットボール 41名
- ④バレーボール 79名
- ⑤ソフトボール 10名
- ⑥バドミントン 9名
- ⑦ソフトテニス 75名
- ⑧卓球 40名
- ⑨陸上競技 68名
- ⑩水泳 7名
- ⑪柔道 2名
- ⑫剣道 44名
- ⑬吹奏楽 85名
- ⑭美術 46名
- ⑮その他 32名

お子さんが学校部活動をやっていてよかったと感じることはありますか（複数回答可）

①技術力の向上	248名
②体力向上や健康増進	455名
③礼儀や作法が身につくこと	271名
④努力することの大切さを学ぶこと	411名
⑤達成感の獲得	301名
⑥責任感・連帯感を養うこと	363名
⑦大会・コンクールで良い成績を収めること	85名
⑧部活動を通じて友達・仲間が増えること	578名
⑨特になし	17名
⑩その他	10名

お子さんが学校部活動をやっている中で心配や負担に感じることはありますか  
(複数回答可)

①専門的な指導を受けられないこと	117名
②部活動内での人間関係	127名
③学業との両立	136名
④休日の大会や活動場所への送迎	268名
⑤活動日数や時間	151名
⑥部員が少ないこと	97名
⑦金銭的負担	51名
⑧その他	24名
⑨特になし	189名

学校部活動以外の教室・クラブ等で行っている競技・種目は何ですか(複数回答可)

①サッカー	27名
②水泳	13名
③野球	30名
④ダンス	12名
⑤卓球	5名
⑥空手	8名
⑦陸上競技	7名
⑧バドミントン	0名
⑨剣道	5名

- ⑩書道 13名
- ⑪バレーボール3名
- ⑫硬式テニス 7名
- ⑬ソフトテニス14名
- ⑭ラグビー0名
- ⑮スキー1名
- ⑯バスケットボール21名
- ⑰ハンドボール0名
- ⑱体操競技0名
- ⑲柔道3名
- ⑳美術1名
- ㉑弓道0名
- ㉒少林寺拳法0名
- ㉓吹奏楽0名
- ㉔合唱3名
- ㉕ソフトボール3名
- ㉖スノーボード1名
- ㉗スケート0名
- ㉘スケートボード0名
- ㉙スポーツ全般（複数競技） 1名
- ㉚茶道0名
- ㉛華道0名
- ㉜囲碁0名
- ㉝将棋0名
- ㉞ピアノ17名
- ㉟新体操0名
- ㊱ボクシング3名
- ㊲その他26

学校部活動以外の教室・クラブ等に参加している理由は何ですか（複数回答可）

- ①子供がやりたいと希望したから 135名
- ②中学校入学前から加入していたから 114名
- ③子供の体力面や精神面の成長が望めるから 68名
- ④学校部活動にはない競技・種目だから 49名
- ⑤大会やコンクール等で良い成績を収めたいから 34名

⑥他校の児童生徒と交流できるから	29名
⑦学校部活動より専門的な指導が受けられるから	65名
⑧様々な体験をさせたいから	44名
⑨部活動の人数が足りず、満足に活動できないから	15名
⑩良い施設で練習できるから	22名
⑪その他	14名

学校部活動以外の教室・クラブの活動にかかる月会費はいくらですか（複数ある場合は、一番金額の高い活動で回答）

①1,000円	22名
②2,000円	8名
③3,000円	9名
④4,000円	5名
⑤5,000円	10名
⑥6,000円	10名
⑦7,000円	8名
⑧8,000円	9名
⑨9,000円	7名
⑩10,000円	16名
⑪10,000円以上～20,000円未満	62名
⑫20,000円以上	30名

学校部活動の地域移行について知っていますか※スポーツ庁・文化庁は、令和7年度までを改革推進期間として、まずは休日の学校部活動から段階的に地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動へ移行する方針を示しています。本市においてもこの方針を踏まえ、学校部活動の地域移行の検討を進めています。

保護者 830名

①なんとなく聞いたことはあるがよくわからない	182名 (22.0%)
②知っている	616名 (74.2%)
③知らなかった	32名 (3.9%)

休日の学校部活動を地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動へ移行した場合、お子さんを参加させたい活動は次のうちどれですか。

- ①学校部活動と同じ競技・種目の活動380名 (47.2%)
- ②学校部活動にはない競技・種目の活動46名 (5.7%)
- ③複数の競技・種目を体験できる活動(例:野球と吹奏楽など)40名 (5.0%)
- ④現在行っている教室・クラブ等の活動を続ける101名 (12.6%)
- ⑤わからない204名 (25.3%)
- ⑥参加させたいと思わない34名 (4.2%)

それはそのような競技・種目ですか(複数回答可)

- ①サッカー 4名
- ②水泳 18名
- ③野球 4名
- ④ダンス 25名
- ⑤卓球 10名
- ⑥空手 9名
- ⑦陸上競技 3名
- ⑧バドミントン26名
- ⑨剣道 5名
- ⑩書道 12名
- ⑪バレーボール 5名
- ⑫硬式テニス 10名
- ⑬ソフトテニス 3名
- ⑭ラグビー 1名
- ⑮スキー 3名
- ⑯バスケットボール5名
- ⑰ハンドボール1名
- ⑱体操競技 7名
- ⑲柔道 3名
- ⑳美術 4名
- ㉑弓道 12名
- ㉒少林寺拳法 2名
- ㉓吹奏楽 10名
- ㉔合唱 11名
- ㉕ソフトボール 1名
- ㉖スノーボード 9名
- ㉗スケート 4名

⑳スケートボード	7名
㉑スポーツ全般（複数競技）	10名
㉒茶道	5名
㉓華道	3名
㉔囲碁	4名
㉕将棋	5名
㉖ピアノ	6名
㉗新体操	1名
㉘その他	11名

休日の学校部活動が学校ではなく、地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動へ移行した場合、どんな活動が望ましいですか（複数回答可）

- ①専門的な技術指導が受けられる活動 401名
- ②大会やコンクールでよい成績が収められる活動 119名
- ③幅広い年代の人と一緒にできる活動 106名
- ④初めてでも気軽に参加でき、楽しむことを目的としたレクリエーション活動 122名
- ⑤その他 12名

地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動に参加させる場合、活動時間はどのくらいが望ましいですか。

- ①1時間程度 21名
- ②2時間程度 173名
- ③3時間程度 243名
- ④その他 29名

地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブ活動に参加させる場合、参加費等（月謝）は、いくらまで負担できますか。※1か月あたりの練習回数は4回程度、1回3時間程度を想定しています。

回答数 830名

- ①1,000円まで 64名 (7.8%)
- ②2,000円まで 95名 (11.5%)
- ③3,000円まで 116名 (14.0%)
- ④4,000円まで 62名 (7.5%)

⑤5,000円まで	91名 (11.0%)
⑥6,000円まで	15名 (1.8%)
⑦7,000円まで	9名 (1.1%)
⑧8,000円まで	11名 (1.3%)
⑨10,000円まで	16名 (1.9%)
⑩10,000円～20,000円まで	5名 (0.6%)
⑪無回答	346名 (41.7%)

休日の学校部活動が、地域のスポーツクラブや文化団体等が担う教室・クラブ活動へ移行することについて、期待することはありますか（複数回答可）	
①専門知識や技術の向上	496名
②設備の整った場所で練習できること	340名
③子どもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な選択ができること	410名
④他校の生徒等と交流できること	291名
⑤その他	72名



休日地域クラブ SAKURA 推進計画（案）

2026 年（令和 8 年） 月策定

佐倉市 教育委員会